

## 会 議 要 録

会 議 名		令和 6 年度 第 2 回 小平市青少年問題協議会
日 時		令和 6 年 8 月 2 2 日（木）午後 1 時 3 0 分～午後 3 時 0 0 分
場 所		小平市役所 5 階 5 0 3 会議室
出席者等	委 員	1 5 名（欠席者 2 名）
	事務局	こども家庭部長、教育指導担当部長、子育て支援課長、地域学習支援課長、生活支援課長、子育て支援課こども・若者支援担当係長
傍 聴 人		1 名
会議内容	1 開 会 2 議 事 （1）小平市子ども・若者計画 令和 5 年度推進状況の概要 （2）こども等に関する意識・実態調査の調査概要について 3 情報交換・意見交換 4 その他 5 閉 会	
配付資料	・会議次第 ・席次表 ・資料 1 小平市子ども・若者計画 令和 5 年度推進状況の概要【差し替え】 ・青少年健全育成講演会兼青少年対策地区委員会代表者協議会研修チラシ	

○ 会議内容等についての意見・質疑応答

### 2 議 事

#### (1) 小平市子ども・若者計画 令和 5 年度推進状況の概要

事務局	<p>1 ページ 1 計画の概要では、計画の位置づけとして、子ども・若者育成支援推進法第 9 条第 2 項に基づく市町村計画である。また、前計画である第 2 次小平市青少年育成プランを引き継ぐとともに、市のこどもの貧困対策に位置付けている。計画の対象は、0 歳から 3 0 歳未満まで、就労等の施策は 4 0 歳未満までを対象としている。ただし、関連計画の中に「小平市子ども・子育て支援事業計画」があることから、子ども・子育て支援を目的とする、この計画の対象が 0 歳から 1 2 歳までと、子ども・若者計画と重複していること、子ども・若者計画は若者の自立を目的としており、そのための施策に重点を置いていることなどを踏まえ、特に、中学生以上の思春期から青年期 3 0 歳未満までを主な対象としている。</p> <p>計画期間は、平成 3 0 年度から令和 9 年度の 1 0 年間だが、令和 5 年 4 月にこども基本法が策定され、こども施策全体として統一的・総合的に、市民にとって一層わかりやすいものにするため、小平市子ども・若者計画を前倒しで見直すとともに、（仮称）小平市こども計画を策定することとした。このため、小平市子ども・若者計画は令和 7 年度をもって計画期間を終了する。</p>
-----	--

子ども・若者は、未来を担う貴重な存在であり、まちに活力と希望を与える存在であること、大人の役割は、子ども・若者が未来に夢と希望を持てるまちをつくることであり、そのようなまちを地域で力を合わせてつくることを目指し、基本理念を、「子ども・若者が夢と希望をもって、自分らしく自立し躍動できるこだいらをめざして」としている。計画を推進するにあたっての基本的な視点を「子ども・若者を尊重して」「一人ひとりの状況に応じて」「地域の持つ力を活かして」の3点としている。2ページ1 施策の体系に記載の5つの基本目標のもと、合計で延べ161事業、再掲されている事業を除く97の事業が展開されている。

3ページ以降には、各事業の令和5年度の実施状況と、今後の予定を掲載している。各事業とも、おおむね計画に基づき順調に推進が図られており、本日は、延べ161事業の中から、重点施策、新規事業として掲げている10事業について、概要を説明する。

重点施策、新規事業の10事業のうち、8つの事業は令和4年度までにすでに実施済みとなっている。No. 27, 56, 112, 136「子ども食堂」のあり方の検討については、平成30年度にまとめた市の考え方を踏まえ、活動団体の自主性・自律性や特性を尊重しながら、活動の周知に協力するとともに、小平市社会福祉協議会を通じて、市内の子ども食堂の状況把握に努めた。今後の実施予定としては、活動の周知に協力し、必要に応じて小平市社会福祉協議会との情報交換を行うなど、引き続き状況把握に努めていく。

No. 32, 48, 102 (仮称) 子ども・若者地域支援協議会の設置については、子ども・若者育成支援推進法の施行時から、ひきこもりの高齢化など社会状況が変化していることを踏まえ、新たな協議会を設置するのではなく、子ども・若者計画庁内検討委員会を基盤として、要保護児童対策地域協議会などの既存の枠組みを活用するなど関係機関と連携しながら、必要な支援を行った。今後は、地域資源の情報収集・活用に努めるとともに、引き続き、社会状況の変化や国・東京都の動向を注視していく。

No. 33, 50, 119 生活困窮者学習支援事業、No. 34, 51, 95, 116 ひとり親家庭学習支援事業については、合同実施したので併せて説明する。生活困窮世帯、児童扶養手当同様の所得水準世帯のこども等を対象に、集合型及び派遣型により学習支援を実施した。〈集合型〉については会場を4か所で実施し、定員50人のところ開始時50人、退会5人、入会5人に事業を実施した。〈派遣型〉については定員5人のところ（退会0人、入会0人）に事業を実施した。

今後の実施予定としては、集合型全会場に導入しているICTを活用したデジタル教材等により、引き続き学習習慣の定着と出席率向上を図っていく。

No. 36, 55, 94, 117, 152 ひとり親家庭高等学校卒業程度認定試験合格支援事業に

	<p>については、児童扶養手当受給者又は同様の所得水準の方とそのこどもに、高卒認定試験合格講座受講費用の一部を給付する事業の周知を行った。令和5年度の実績は支給件数0件、支給額0円であったが、今後も引き続き事業の周知に努めていく。</p> <p>No. 39 若者応援ガイドブックの発行については、若者応援ガイドブックの内容を更新して発行し、市内の中学校、高校、大学、児童養護施設などの各施設や、若者の支援に携わる関係機関へ配付した。第1回青少年問題協議会でも配布した。今後も継続して実施していく。</p> <p>No. 74 児童養護施設退所者への支援情報の提供については、若者への支援情報をまとめた若者応援ガイドブックを発行し、児童養護施設へ配付することにより、情報提供を行った。今後も継続して若者応援ガイドブックを配付することにより、支援情報を提供していく。</p> <p>No. 108 受動喫煙防止対策については、迷惑喫煙やごみのポイ捨てに対する意識の向上を目指し、環境美化マナーアップキャンペーンを小平駅、新小平駅、鷹の台駅、花小金井駅、一橋学園駅、小川駅にて計18回実施した。参加者数258人、啓発品配布数16,040個、ごみ回収量：80.35kgの実績であった。また、令和2年4月1日に改正健康増進法・東京都受動喫煙防止条例が施行されたことに伴い、市ホームページやポスターなどで、周知・啓発を行った。また、受動喫煙防止リーフレット5,000部を作成した。今後も継続して実施していく。</p> <p>令和5年度には新たに、資料1の裏面、2行目のNo. 40『若者応援サイト』の掲載を小平市ホームページ上で開始いたした。トップページからたどりつきやすいように『若者応援』の検索ボタンを新たに表示し、アクセスしやすくしたほか、ページにはイラストを多く使用し、見やすさとわかりやすさを工夫した。</p> <p>残りの1事業、着手中の46『若者相談体制の検討』については、若者応援ガイドブックの配付により、若者向けのさまざまな相談先を市内公立中学校、高校、大学、児童養護施設などへ周知した。今後もさらなる取組の必要性について検討していく。</p>
委 員	<p>受動喫煙防止対策について、実際に対策で効果検証や成果についてはどこかで確認ができるのか。学校周辺は都の条例で喫煙してはいけないことになっているが、小平市は歩行喫煙を禁止していないので、毎日学校の周辺にすいながら複数個落ちている。一定期間のキャンペーンは一定の意味はあるが、こどもたちを受動喫煙から守ることや、学校施設を健全に保つためにはもう少し積極的な取り組みがないと変わらないのではないかと思った。</p>
事務局	<p>駅周辺では対策を取っているが、後日回答する。</p>

委 員	No. 33 生活困窮者学習支援事業と No. 34 のひとり親家庭学習支援事業についてだが、派遣型は枠が 5 人とのことだが、定員に達したということか。
事務局	定員 5 名に対し、5 名に実施した。
会 長	同じところについて質問だが、派遣型と集合型について、どういう方が教えているのか。
事務局	派遣型と集合型を合わせて業務委託により実施している。

(2) こども等に関する意識・実態調査の調査概要について

事務局	<p>資料 3 小平市こども計画策定に係るこども等の意識・実態調査の概要についてであるが、1 調査の目的 こども基本法に基づく「(仮称) 小平市こども計画」の策定にあたり、基礎資料とするために実施する。2 調査の方法の (2) 実施内容としては調査期間を令和 6 年 1 1 月下旬から 3 週間程度としている。</p> <p>調査の種類としては、高校生年代 1 千人、学生年代 (18 歳から 22 歳) 1 千人、一般 (22 歳から 29 歳まで) 1 千人を対象としたもので、無作為抽出により依頼状を郵送し、Web での回答を想定している。①は、市立小学校 5 年生と中学校 2 年生全員へ向けた子育て支援課で初めて実施するアンケート調査となる。前回平成 2 8 年度調査では教育総務課での調査と時期が重なったため、子ども・若者計画に関する設問は教育委員会でのアンケートに 2、3 問追加して、小中学生の意識・実態を把握した。</p> <p>今回は市立の小 5、中 2 生全員に向けて、すでに配備されている G I G A 端末を使用することにより、こどもが大人の顔色を気にせずに回答できるよう配慮するものである。これらのアンケート調査、①②については、どちらも委託事業者により行う。②は、こどもに関する関係者、具体的には青少年対策地区委員、青少年委員、民生児童委員、保護司などに調査票を配付もしくは郵送にて実施する。無記名による紙の調査票にて回答してもらい、子育て支援課で集計する。</p> <p>3 調査結果の報告などの予定としては、1 2 月中に回答状況を取りまとめ、1 月中旬には速報、3 月中旬から下旬には部会、庁内検討委員会及び青少年問題協議会において報告の予定である。</p> <p>資料 4 これまで実施のアンケート調査であるが、今回実施の (仮称) 小平市こども計画、次に昨年度実施した第三期小平市子ども・子育て支援事業計画、平成 2 8 年度に実施の小平市子ども・若者計画、令和 3 年度に実施した第二次小平市教育振興基本計画に関する実態調査の調査比較である。</p> <p>右から 2 番目の平成 2 8 年度の子ども・若者計画策定時は、先ほども触れたが、教育振興基本計画策定年と重複したため、小中学生には、教育振興基本計画に係るアンケート調査に、設問を数問追加し、小 6、中 1、中 3 年に実施いたした。</p> <p>今回、実施の令和 6 年度 (仮称) 小平市こども計画に関する意識・実態調査については、小学生、中学生を対象とした調査を初めて子育て支援課で実施するが、年末にかけての調査となるため、進学への影響が少ない市立の小学 5 年生、中学 2 年生に対して行う。学生・一般向け、関係機関向け調査については平成 2 8 年度実施と同様に実施する。</p> <p>続いて資料 5 のアンケート項目について説明する。資料 5 - 1 は、小学校 5 年生、中学校 2 年生向けの調査である。東京都による令和 5 年度東京こどもア</p>
-----	---

	<p>ンケートの項目を参考に作成し、こども大綱で示されている指標に関連したのも調査項目として追加した。問４の自分のことに関する設問や問２１の困りごとや悩みごとがあったときの相談相手を聞く設問がこども大綱をベースとした設問である。また、虐待・ヤングケアラーに関する項目を追加した。</p> <p>回答意欲をそぐことのないように、特に小学５年生についてはできるだけわかりやすい表現をこころがけ、設問も選択肢も極力数を抑えた。全部で２８問、こどもたちの負担とならないよう、回答できる設問のみこたえればいいことを周知し、おおむね１５分から２０分程度の回答時間を想定している。</p> <p>資料５－２は、高校生、学生・一般向けの調査である。平成２８年度に実施した子ども・若者計画の意識・実態調査の項目を基に、不要な項目を見直し、小中学生と同様に、こども大綱における指標を調査項目として追加した。また、虐待・ヤングケアラーに関する項目を追加した。全部で４８問、おおむね１５分から２５分程度の回答時間を想定している。</p> <p>資料５－３は、関係機関向けの調査である。平成２８年度は記述式回答を求める質問項目が中心であったが、今回は回答しやすいように選択式をメインとし、他市の質問項目を基に作成した。設問数は８問、最後の１問を自由記述としている。</p> <p>資料７ 意識・実態調査のスケジュールについてであるが、これまで庁内での検討部会、庁内検討委員会にて調査項目案について、意見聴取したものを本日の青少年問題協議会で示している。今後、本日の意見、またこれから実施の庁内検討部会、検討委員会を経て、次回の第３回青少年問題協議会にて、アンケート調査の最終案を示す予定である。アンケート調査について、審議委員の皆様からご意見をお伺いできる機会は本日が最終ということになるが、今後のご意見については事務局に問い合わせしてほしい。調査項目の確定後、１１月下旬よりアンケート調査を開始する。調査報告については３月実施予定の第４回青少年問題協議会にて報告する予定である。</p>
副会長	<p>小学生５年・中学生２年の問４・５・６・１７について、問を分けたほうが良いのではないかと。問１３「居場所はどれですか」選択肢の９のオンライン上の選択肢は場所ではないと思うのだが、問題ないか。問２７学生の方に伺います。「現在の職業を継続希望」という選択肢は、単純に考えると問題ないか。</p>
事務局	<p>問４・５・６・１７について、Ｗｅｂ上ではそれぞれ選択肢を選べるようにしているので問題ない。</p> <p>問１３について、コミュニティに参加しているという角度でとらえて、オンライン上の居場所を設定している。</p> <p>問２７について、夜間の学校に通いながら働いている学生もいると思われるので特段問題ない。</p>
委員	<p>小５・中２のアンケート調査が１５～２０分とのことだが、高校生以上向けはどのくらいで考えているか。</p> <p>スマートフォンで回答する人が多いと思うが、設問数があまりにも多いので、負担が大きいと感じている。年齢や性別があらかじめわかるのであれば、減らしても良いのでは。</p>
事務局	<p>スムーズに選択していけば１５分で、人によればもう少しかかる。年齢や性別はわからない状態で無作為抽出する。</p> <p>他市の事例などを見ても、同程度の設問数となっており、回答率なども公開されている。途中で飽きないような工夫や、途中で保存できるような設定をして実施していきたい。</p>
委員	<p>小中学生が学習者用端末で回答だが、保護者があとで回答した内容が見えてしまうことがないのか。</p>

事務局	I Dやパスを保護者がわからなければアクセスできないので、内容は確認できない。
会 長	これだけの設問数を理解できて回答する層とそうでない層ができて、回答に偏りができてしまう。今後工夫が必要だと思うが、どのように考えているか。サポート体制はどのように考えているか。
事務局	回答にお困りの方がいたら問合せできるような周知をしていきたい。
委 員	設問の中の言葉の表現についてだが、問6の「仲が良い」というとらえ方が非常に難しい。つながりとしてよく話をするとか、あいさつをするとかだと具体的な接点がわかるが、仲が良いは人によってとらえ方が違う。また、問7の「ひとりぼっち」について、孤独やひとりぼっちというのが悪いイメージでとらえられがちだが、それが好きな人もいし、みんなでワイワイ話している状態が望ましいわけでもない。回答しながら暗い気持ちにならなければよいと思う。問11「学校がきれい」という表現ではなく、どういうところが好きですか、嫌いですか、というほうが回答しやすいのでは。問12の嫌いだから休むことがあるという表現も同じ。問14について、自由にボール遊びができる、という選択肢が入るとよいのでは。
事務局	言葉の表現については、これからまた検討していきたい。例えば「ひとりぼっち」という表現は当初は「孤独」という言葉を使っていたが、わかりにくいので変更した経緯などがある。仲が良いというのも人それぞれ感じ方の差はあると思うが、本人がどう思っているか、で答えてもらいたいと思っている。学校に行きたくなくて休むことがありますか、など、表現を再度検討していきたい。
委 員	アンケートに回答するこどもが自分の気持ちがうまく表現できないが、回答していくうちにモヤモヤしているであることに自分で気が付けるような設問があると良いと思った。

### 3 情報交換・意見交換

委 員	現在大学3年生で、周りの人と活動するような団体に入っていないが、大学自体が力をいれている活動があり、地域の高校生の交流や、病気で学校に行けない子に対するボランティアなどがある。一方で自分から動かないと、人とのつながりが減っていると感じている。小中学生の時は、クラスメイトと話すことや、行事などで人との触れ合いが多かったが、大学に入ってから、コロナ禍があったこともあり、サークルが減ってきており人と関わる機会が少ないので、自分で動けるかどうかで経験の差が生まれてきていると感じている。
委 員	小学校の放課後広場で活動している。現在ちょうど夏休みで、9月の新学期に向けてチームで準備をしているところである。
委 員	今日の会議の中で、活動について周知が必要という話があった。市のXの一つのアカウントから様々な情報がたくさん出ていて、情報にアクセスするのが難しい。まとまった部署で決まった情報を発信したり、若者応援ガイドブックについても、何度も発信したり、インスタグラムを活用したりするとよいのでは。
委 員	先ほどの実態調査のところで、資料4過去のアンケート調査で、直近で3回のところで、回答率を教えてください。アンケート調査の項目を見ると、細かいことを聴くような設問があり、人によっては回答しながら暗い気持ちになってしまっているのでは。せっかくアンケートを送るので、併せて相談先の周知を行うと良いのでは。
事務局	回答率については後日お知らせしたい。相談先の周知については実施していきたい。
委 員	中学生の部活動を教えている。中学3年生は学校見学などをしていると、心を病む子が出てきている。学校には行きたくないが、部活には来れる子もいるの

	<p>で、部活動での支援や地域コミュニティでの支援が必要だと感じている。</p> <p>アンケートについてだが、かなりお金がかかっていると思うので、アンケート結果を踏まえて対応策をきちんと取ってほしい。また、こういう業務委託にお金をかけるよりも、子ども食堂などにお金をかけたほうが良いのではないかと感じた。</p>
委員	<p>悩みを持っている人と話をする機会があった。話の中で、ネットで声を発信することつらいこともあり、チャットなら相談できるんです、という話があったので、一つの選択肢として検討しても良いのでは。また若い人はインターネット空間が居場所になっている場合もあるということを知った。また、地域センターや児童館の間のような、リラックスできる居場所があるといいと思った。自分が苦しい状況にあるのにも自覚できない場合もあるということも知った。そういう人に手を差し伸べられるような福祉であってほしいと感じた。</p>
委員	<p>保護司としてかかわっている中で、犯罪に走る要因として、家庭環境、虐待や、学校でうまくいかなかったことが影響している場合が多い。環境が悪くなってくると、こどもは孤立し、殻に閉じこもり、犯罪の方向に走ってしまう。このアンケートの重要性をととても感じているので、結果に基づいて、対策をしっかりとしていただきたいと思っている。</p>
委員	<p>民生委員を長くやっていると、今になって、あれはそうだったんだと感ずることがある。今はヤングケアラーという言葉があるが、以前は何度も家を訪問して声がけしていたこどもがいた。学校に行けなかったが、成績が良く、その後進学をしていた。最近話をする機会があり、実はあの時は親が心配で家を出られなかったということを教えてもらった。ヤングケアラーという言い方は大人目線で、当事者は大人には言わないがきちとした理由があるんだろうと思った。アンケートを取り、結果をまとめるときには、いろんな角度から見られるような集計ができるといいと思った。</p>
委員	<p>アンケート調査について、高校生以上の設問数は数が多すぎる。自分が関わっている子に渡しても途中でやらなくなるのではないと思う。聴きたいことはいろいろとあると思うが、主体のこども・若者がどのように受け取るか、というのを考えていってほしい。</p> <p>日本の制度は公的なもの・民間のものなどたくさんあるが、枠が決まっていて、相談してもそこに該当せず、ひとつダメだと心がおれてしまう場合がある。本当の意味でＳＯＳを出している人が入りやすいような仕組みを考えていってほしい。支援する側、支援される側の見方の差を感じている。</p>
委員	<p>高校生の設問数が多くて、だれが答えるのか、と思ってしまう。</p> <p>これから高校でも通級指導を始めるが、学校側で対策を考えねばならず、ノウハウがないので、関係機関と連携していけるような体制を取っていききたい。</p>
委員	<p>小５・中２問２５の選択肢で、一つしか選べないのはなぜか。複数選択できるようにするか、聴き方を変えたほうが良い。</p> <p>また、問２８について、こどもを何人育てたいか、と聞いても答えられないと思うので、将来どんな家庭環境を持ちたいか、という角度で聞いたほうが良いと思う。こどもをもって育てることに興味があるのかどうかを聴くのは良いと思う。</p> <p>生徒たちの姿や課題について、教職員で意見交換をしたところ、素直でとても良い子たちだが、逞しさ、困難を乗り越える力がないのと、普段つながりがない子にあまり関心がないという意見が多かった。解決策がなかなかないが、グリ下、ト一横に集まるこどもたちに社会が関心を持ってアプローチしていたら、犯罪も減ると感じ、学校がどのようなことができるのかなと思った。学校だけでなく、家庭の役割も大きい。</p>
委員	<p>小５・中２は学校で実施するが、保護者にはお知らせするのか。このアンケートを実施することで、チャットやＳＮＳなどで相談できる場所につなげてもら</p>

	<p>いたい。</p> <p>関係機関に対するアンケートがあっさりしている。関係機関を活用し、小平市のサービスについて、周知しても良いのでは。</p> <p>警察の状況では、ほとんどの中学生はSNSを使っており、小学生でも使っている子が多いのではないかと思う。アンケート項目については、もう少し具体的な対策につなげていける設問にしたらどうかと思っている。警察としては、SNSを媒体とした犯罪対策を重要視しているので、アンケート結果を活用できればと思っている。</p>
委 員	<p>アンケート項目のヤングケアラーについて、日ごろ意識していなくても親、兄弟を支援している子もいる。自分としてはお世話をしている感覚がない潜在的なものについてもひろいたいと思うが、これ以上設問数を増やすのは難しいので、表現を工夫してほしい。</p> <p>夏休みに入り、児童相談所で保護するケースが増えている。特にスマホと家の片づけに関するトラブルが多い。スマホについてはSNSで遠方の人とやり取りして会いに行ったらトラブルに巻き込まれるなど、スマホを持つ年齢が低年齢化し、広域化しているのが特徴である。</p>
副会長	<p>青少対の夏祭りなどを通じて、こどもたちには社会への帰属意識、地域への一員であると自覚して、力を発揮してほしいと思っている。</p>
会 長	<p>学生と接していて、自分から機会を求めていく学生は自分の意見を持っていて、つながりに意義を感じていると思う。アンケートに答えることによって、社会に参画することの意義を感じてもらえればと思っている。</p>